

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

昭和50年度中央図書館利用状況の概要

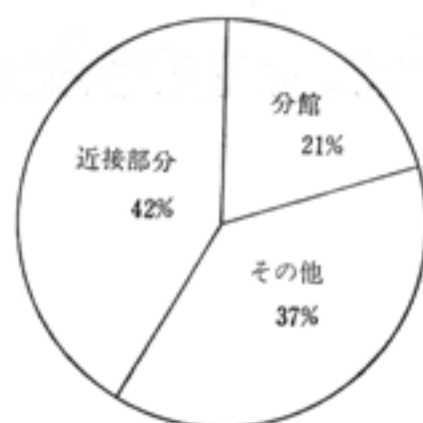
中央図書館の利用状況については、これまでに昭和49年度利用統計をとりまとめ刊行し、その解説と概要を館報（Vol. 1, No. 1）に記載したが、引続き昭和50年度利用統計をとりまとめ印刷刊行することとなった。この50年度利用統計においては、多様な各種の統計表を収録しているほか、入館者、学生用図書、研究用図書、指定図書、入庫者、文献複写、レファレンスサービスなどについて前年と比較検討して利用状況の変化と傾向をとりまとめた。これらのうち主要なものを図表にして本号に掲載することとした。

（注）表中の〔 〕は前年度データである。

- 1 全学利用対象者総数 17,198人
分館（医・農）利用対象者を除く数 13,578人
近接部局利用対象者数 7,191人

2 推定入館者数

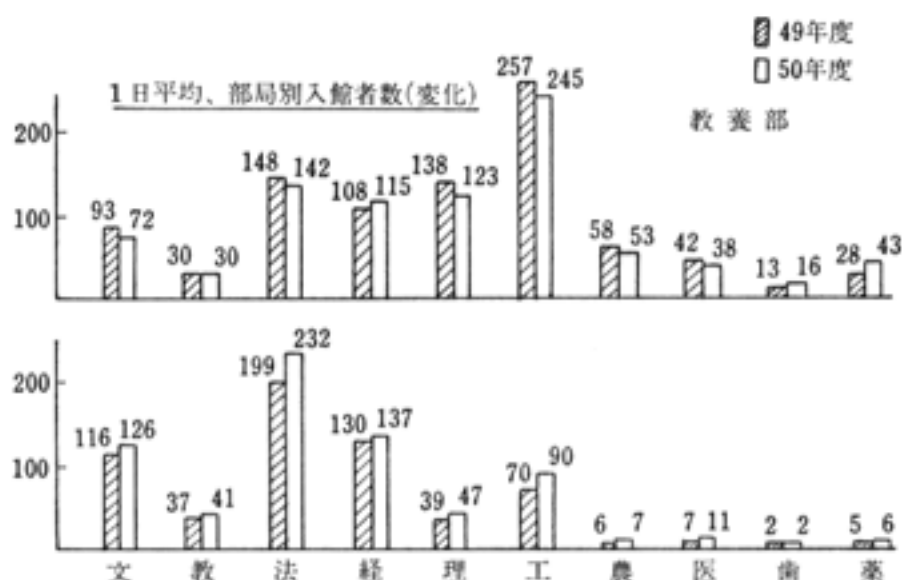
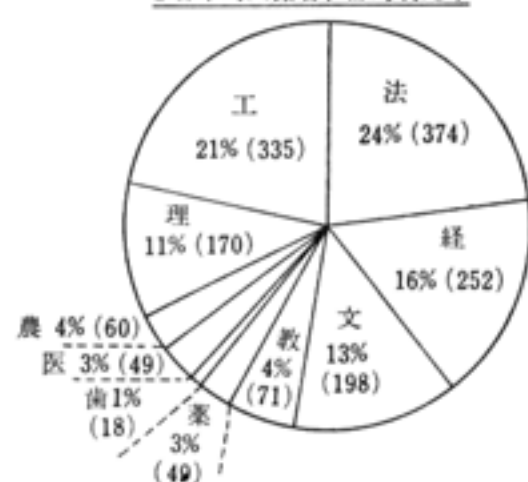
- 1 年間総数 474,000人
〔464,000〕
1 日平均数 1,650人
〔1,600〕



学生部局別入館者数（入館者調査結果）

	文	教	法	経	理	工	農	医	歯	薬	計	合計
教養部 1 日平均(人)	72	30	142	115	123	245	53	38	16	43	877人	1,576人 〔1,527〕 46回 〔44〕
1 人当年回数	62	59	84	65	56	39	44	44	65	71	53回	
学部 1 日平均(人)	126	41	232	137	47	90	7	11	2	6	699人	
1 人当年回数	99	74	119	80	20	14	6	7	4	11	39回	
											[35]	

1 日平均入館者、部局別比率



3 開架図書室、閲覧・貸出冊数

単位百冊

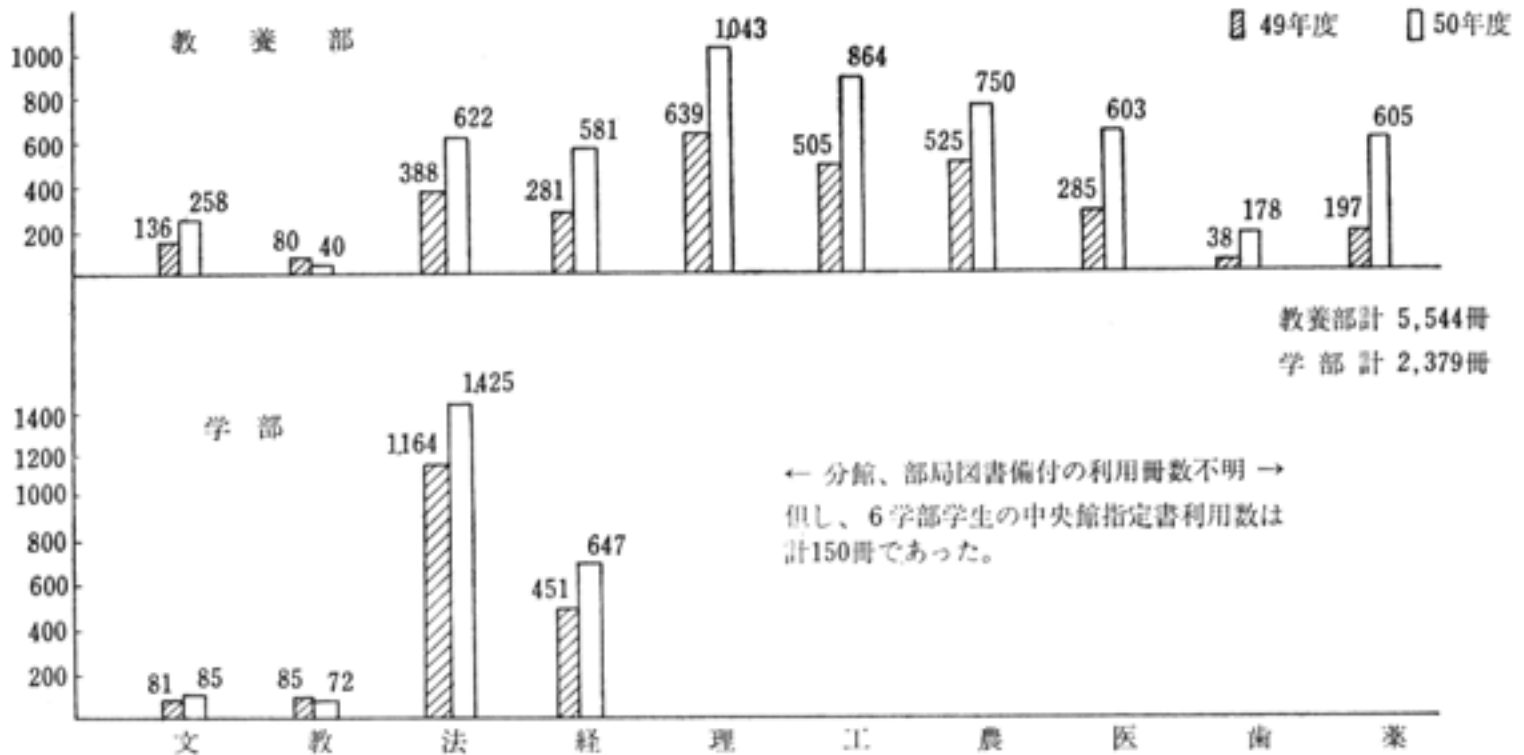
	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	雑誌	計
閲覧	30	42	56	192	260	31	5	25	73	86	9	809
貸出	10	32	23	89	108	11	2	8	5	53	—	341

4 メインカウンター、閲覧・貸出冊数

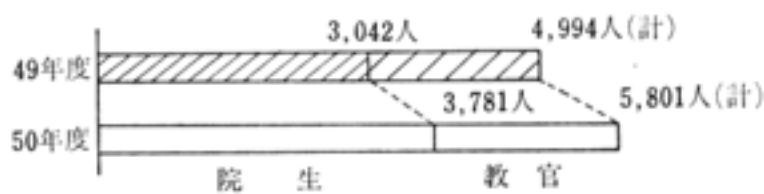
単位百冊

	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	雑誌	計
閲覧	3.4	4.3	6.3	10.3	1.8	1.6	0.2	1.2	1.5	8.7	17.1	56.4
貸出	13	25	25	65	3	—	1	5	5	21	21	184

5 指定書部局系別利用冊数 総冊数 7,923冊 [5,012]



6 入庫者数の変化



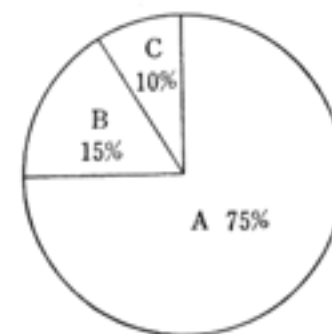
7 文献複写実績

件数	3,581件	枚数	92,842枚	金額	3,029千円
	[2,689]		[81,142]		[2,679]
学内	2,604件		1,682千円		
	[1,714]		[1,083]		
学外	977件		1,347千円		
	[975]		[1,596]		

8 レファレンス応答件数 4,420件 [3,485] 2,484人 [1,981]

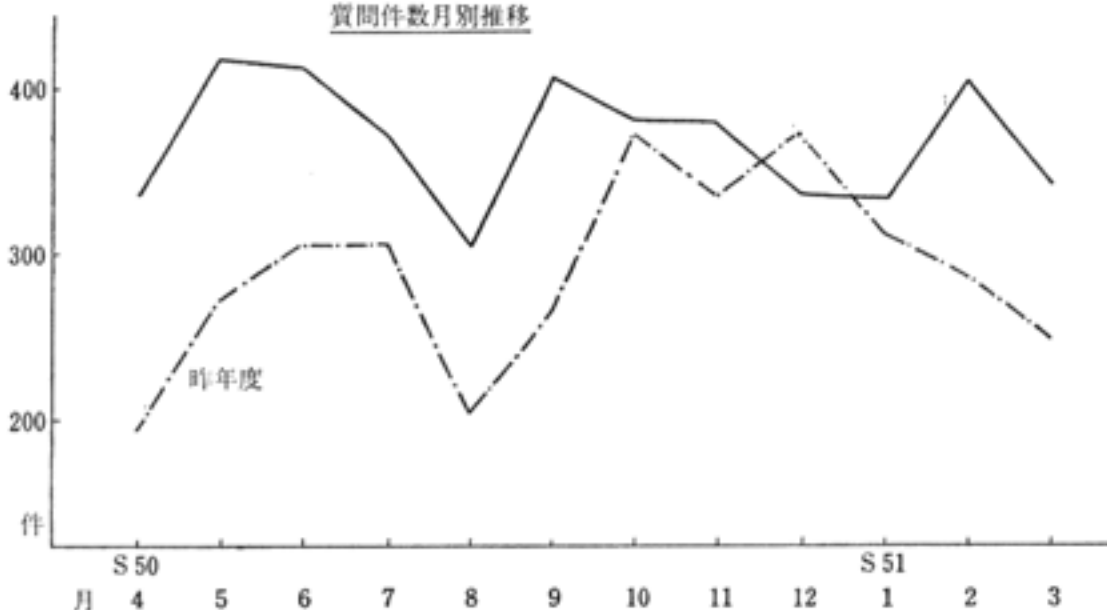
	教官	院生学生	図書室	計
人文社会	165 [136]	471 [289]	25 [12]	661人 [437]
自然	152 [95]	395 [282]	1,276 [1,167]	1,823 [1,544]
計	317 [231]	866 [571]	1,301 [1,179]	2,484 [1,981]

質問内容別比率

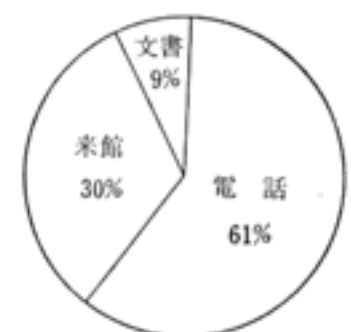


A : 文献所在調査
B : 書誌の事項確認
C : 利用指導

質問件数月別推移



手段別比率



学 生 用 図 書 の 選 定 業 務

本館では、学生のために適切でかつ有用な図書館資料を組織的に選ぶために図書選定委員会の中に作業グループを設けているが、それにより今年度は2666タイトル（50年度は3582タイトル）の図書を選定することができた。作業グループは、人文、社会、自然科学の3部門に分けられており、それぞれ5～6名の図書館職員が、選定要領にもとづいて作業を行っている。今年度の場合、原則として、1976年発行の新刊書を中心に選択し、版次、発行所、価格等の書誌事項まで確認し、グループごとに「購入希望図書リスト」を作成した。この際の問題はつまるところすでに選定済みの図書との重複調査であるが、これについては、現在のところ、主として国立国会図書館印刷カード目録と注文中図書カード目録との両方を利用したチェック方式によってかなりの調整がなされている。国会カードについては、和書目録カード作成にも使用している関係で受入れられた図書の請求記号がカードに記入される一方、既に学生用図書として選定したものについても該当する国会カ

ードにチェックを付しているので、重複の判別ができるわけである。

このような選定作業における技術的な工夫は今後も検討を続けなければならないが、ここで何よりも重要なことは選定される図書館資料の質と量であって、たとえそれが、学生用図書に関する限られた部分であっても図書館資料の利用率ひいては図書館機能の効率性を大きく左右するものであるということを忘れてはならないのである。

学生用図書の選定体制は上にのべた作業グループによるものの他に教養部図書協議会や附属図書館選定委員会の関係する部分もあって、ここにおいてもその運営上ならびに業務的な調整が必要である。選定業務を担当する立場で考えてみると、今後、全学的な視野から共同利用できる高額な図書館資料とか学際領域における特別図書資料等について一層きめこまかな作業ができるよう選定体制の整備が望まれるわけであるが、当面の課題としては学生用図書の選定一本化をまず検討すべきだろう。（参考調査掛）

昭和50年度閲覧課相互利用掛に於ける業務統計

1 文献複写統計

1 1年間文献複写実績総数

件数	3,581件
枚数	92,842枚
金額	3,028,651円（送料も含む）

2 月別複写件数

50年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処理件数	学内	131	262	247	183	89	207	246	231	220	269	378	141
	学外	67	65	78	89	83	91	108	69	73	67	108	79
	計	198	327	325	272	172	298	354	300	293	336	486	220
処理枚数	学内	1,605	3,034	4,437	3,898	1,562	8,768	5,733	3,565	5,923	8,261	5,991	4,909
	学外	2,420	2,787	2,415	2,973	2,102	3,684	4,648	3,722	2,295	2,134	3,744	2,232
	計	4,025	5,821	6,852	6,871	3,664	12,452	10,381	7,287	8,218	10,395	9,735	7,141

3 利用者別区分（学内者・学外者の別）統計

学 内			学 外			合 計		
件数	数量	金額	件数	数量	金額	件数	数量	金額
2,604件	57,686枚	1,681,876円	977件	35,156枚	1,346,775円	3,581件	92,842枚	3,028,651円

4 経費費目別区分（国費・私費の別）統計

国 費			私 費		
件 数	数 量	金 額	件 数	数 量	金 額
422	23,097枚	804,736円	3,159	69,745枚	2,223,915円

5 複写機器別区分（電子式・引伸・マイクロフィッシュの別）統計

i 電子式複写 3,561件 80,844枚

ii 引伸（リーダープリントを含む）

16件 11,904枚

iii マイクロフィッシュ 4件 94シート

Ⅱ 他館の利用

1 他大学図書館（相互利用協定内）を利用した統計

① 利用者紹介数

学 生 201人

院 生 69人

教 官 34人

合 計 304人

② 閲覧許可願書発行枚数 計 394枚

内訳：①東京大学(126枚)②一橋大学(26枚)

③北海道大学(17枚)④京都大学(13枚)

⑤富山大学(12枚)⑥岩手大学(11枚)

⑦山形大学(10枚)⑧宇都宮大学、

信州大学、東北学院大学(各9枚)⑨名

古屋大学、宮城教育大学(各8枚)

⑩北海道教育大学、秋田大学、東京教育

大学、山梨大学、金沢大学(各6枚)

その他

③ 図書借受冊数 27冊

2 他館へ文献複写を依頼し、利用した統計

① 学内利用者が本館に要求した他館文献複写の統計

学 生 44名 67文献

院 生 185名 376文献

教 官 109名 233文献

合 計 338名 676文献

② 同上、依頼先他館の館種別統計

国立大学図書館へ 501文献

私立大学 " 160文献

公立大学 " 15文献

合 計 676文献

③ 相互利用掛窓口に於ける学内他部局図書借用証発行状況調べ

学 生 260名

院 生 211名

教 官 140名

職 員 8名

合 計 619名

第8回 国立大学図書館東北地区協議会開かる

去る4月12日（火）、13日（水）の両日、山形大学を当番館として開催され、本館から和田館長、長尾事務部長、竹原総務課長、石川閲覧課長、田代企画・渉外掛長、医学分館から松川医学分館事務長が出席した。協議に先立って当番館久佐館長の挨拶と出席者の自己紹介があったのち、議長を選出し議事に入った。

一般報告としては、地区連絡館の東北大学和田館長及び長尾事務部長より、先に開催の「常務理事会」「大学図書館基本問題特別委員会」等における審議経過の詳細が報告された。

その他の報告としては、東北大学医学分館松川

事務長並びに宮城教育大学大塚館長より、それぞれ「日本医学図書館協議会」及び「全国教育系大学附属図書館協議会」の活動状況が報告された。

ついで協議に入り

1 第24回国立大学図書館協議会総会の分科会提出テーマについて活発に論議がなされ、図書館職員の増員を重点とした要望事項の提出方を承認。

2 上記協議会の理事として東北大学のほかに山形大学を承認。

3 次期当番館に、東北大学が決定。

なお上記2、3については、今後輪番制による

こととし、協議題とせず確認にとどめることが了承された。

以上の協議ののち“談話題”として「選書体制をめぐる諸問題」「図書館維持費の配分」について各大学の実情報告と意見が交換されて、協議会を終了した。

東北大学附属図書館「木遣子」 編集委員会要項が制定さる

「木遣子」もこの度、第5号を発行するにいたり、この一年間の経験をもとにして編集要項が制定されたので、以下にその全文を紹介します。

東北大学附属図書館報「木遣子」編集委員会要項

- 1 東北大学附属図書館に館報を発行するため編集委員会（以下「委員会」という。）を置く。
- 2 委員会は主として図書館の業務および活動を広く学内・外に広報することを目的として館報を発行する。
- 3 委員会は総務課長、企画・渉外掛長のほか選出された整理課2名、閲覧課2名の6名をもって組織し附属図書館長がこれを委嘱する。
- 4 委員長は委員の互選により委員会を代表する。
- 5 選出された委員の任期は2年（4月～3月）とし、半数を交替する。

委員が年度中に館内異動しても交替はしない

- 6 委員長は委員を招集し次の業務を行う。
 - 1) 掲載事項の選定
 - 2) 原稿依頼および回収
 - 3) 割 付
 - 4) 校 正
 - 5) その他必要事項
- 7 東北大学附属図書館報は次により発行する。
 - 1) 発行回数・年4回（4月・7月・10月・1月）とし、号外を発行することもある。
 - 2) 発 行 日 発行月の末日
 - 3) 発行機関 東北大学附属図書館
 - 4) 発 行 人 附属図書館事務部長
 - 5) 部 数 1,700部
 - 6) 規 格 B5判
- 8 委員会の事務は附属図書館総務課企画・渉外掛において行う。

附 則

この要項は昭和52年4月1日から適用する。

記念資料室だより

当記念資料室副室長（本館調査研究室長）原田隆吉助教授は、ミシガン大学の日本研究センターからの招聘を受けた交換教授として現在アメリカに出向中である。（期間は本年1月から6月まで）国内ではまだ例の少ない施設としての当室ではあるが、欧米においては古い歴史をもつところも多く、新しい組織として図書館におけるR&Dのセクションとして発展させているところも少くない。その意味で彼地における収穫の多きを期し得ることと考えられる。

『東北大学五十年史』編纂時の資料を母胎として発足した本室も、この7月で創設14年になる。その間第二高等学校・仙台医学専門学校等の包摂校資料、学内本部事務局を初め各学部・各研究所資料等が、関係者の理解と協力を得て収集されて来た。また、昭和39年度から当室で作成を始めた本学退官教授の著作目録も昭和52年度現在で約150点を数え、記念写真の作成と相俟って貴重な資料群を形成しつつある。

一方、昭和49年に発足した旧制高等学校資料保存会（東京）を中心とする旧制高等学校史の研究あるいは、高等教育史研究の新たな展開、さらには学制百年を迎えつつあるわが国の大学史編纂の気運の盛り上がり等々を受けて、当室を見学・利用する研究者も増加しつつある。

因みに、昨今来室された方々の御氏名と併せて新収記念資料の一部を下に記すと次の如くである

3・3 文学部中国文学科院生 佐藤充幸氏

『水泳部五十年史』寄贈

3・4 元理学部教授 加藤謙次郎氏『東北大学理学部地質学古生物学教室同窓会ニュース』寄贈

3・4 オレゴン大学教授 ホルダー氏見学

3・5 河北新報社 秋田記者『天は東北』寄贈

3・16 東大百年史編纂室 館昭氏 } 見 学
女性文化資料館 館かおる氏 }

3・24 工学部より『東北大学工業教員養成所官印』16箇寄託

4・4 庶務部より『第2回全日本大学選手権競漕大会時の写真パネル』寄贈

資料の増加に応ずる資料保管の場所の確保が大きな課題ではあるが、記念資料の学術史的意義をことさらに思う昨今である。

学生用図書並びに指定図書の

配架換えについて

学生用図書

開架閲覧室には、昭和48年12月の全面開館以来3つの分類体系（旧本館Ⅰ～Ⅲ，旧教養部分館000～999，新館A～Z）をもった学生用図書を各主題を接近して配架してきたが，冊数の増加とともにこの体系がくずれて，利用探索に不便をきたし，また利用者の動線が錯綜して関連資料への検索に大きな障害となってきた。また，新分類図書（A～Z）の今後の増加を見込み，配架資料に対する学生の利用面からの動線を考慮し次の様な配架調整を行なった。

開架閲覧室の東側の書架には新・旧分類の自然科学・工学・産業・芸術・語学・文学，西側の書架には総記・哲学・歴史・社会科学分野の資料を配置した。

指定図書

指定図書とは，講義に直接関連した教科書以外の図書を講義担当教官が指定したものである。昭和51年度までは指定図書閲覧室（1階）に配架し安全開架方式をとって来たが，附属図書館商議会の議によって設置された「学生用図書に関する専門委員会」の出した『指定図書と一般学生用図書，レファレンス図書をできるだけ接近させることによって一層の利用効果を高めることができる』という答申（昭和49年2月15日）と全学部・教養部合同図書委員会における指定図書制度の改善策の検討の結果に基づいて，このたび指定図書（文学部，教育学部，法学部，経済学部，教養部）を開架閲覧室（2階）の西側雑誌架前の書架に移動した。

利用方法については，同室内に於いては自由に閲覧できますが，他の閲覧室等に持ち出すときは学生用図書と同様に閲覧票に記入しカウンターで手続きをとってください。なお指定図書の館外貸出はいたしません。資料の配置図については，開架閲覧室の掲示をごらんください。

お知らせ

入館券の交付について

東北大学附属図書館（本館）を利用する本学教職員及び学生は，利用者として登録をし入館券の交付をうけて下さい。特に，新入生，学部進学 of 学生，新入院生の方は，入館券の申込をし，交付を受けないと図書館の利用が出来ませんのでご注意下さい。入館券の申込受付は，4月11日（月）から学生は開架カウンター（2階），教職員・院生はメインカウンター（1階）でおこなっています。

時間外開館について

昭和52年度の時間外開館の実施期間は，下記の通りです。なお開館時間は，平日18時30分まで，土曜日は15時までです。

実施期間

4月11日（月）～7月16日（土）

9月1日（木）～12月17日（土）

1月9日（月）～2月25日（土）

人事異動

（3月1日付）

（本館）整理課洋書目録掛

事務補佐員 斎藤 真理

辞職

（3月31日付）

（本館）整理課和漢書目録掛

事務補佐員 大友 みよ子

（〃）閲覧課閲覧掛

事務補佐員 福永 須和子

（医分）整理掛

〃 中村 敦子

辞職

（4月1日付）

（本館）事務部長 栗原 一郎

（〃）整理課洋書目録掛長 猪股 助太郎

（〃）閲覧課閲覧掛

文部事務官 入野田 正康

（医分）総務掛

〃 大松沢 美子

辞職

九州大学附属図書館

事務部長 長尾 公司

（本館）事務部長に配置換

（本館）総務課長

猪狩 治

金属材料研究所経理課長に配置換

岡山大学施設部企画課長 竹 原 悦 郎
 (本館) 総務課長に配置換
 (本館) 総務課 会計掛長 斎 藤 行 雄
 学生部川渡共同セミナーセンター事務掛長に配置換
 (本館) 総務課企画渉外掛長 佐 藤 定 夫
 工学部図書掛長に配置換
 (本館) 整理課受入掛長 桜 田 俊一郎
 (本館) 閲覧課参考調査掛長に配置換
 (本館) 整理課和漢書目録掛長
 塚 原 清 二
 理学部図書掛長に配置換
 (本館) 閲覧課参考調査掛長 及 川 三千男
 (本館) 閲覧課閲覧掛長に配置換
 (本館) 閲覧課閲覧掛長 阿 部 寿 雄
 (本館) 整理課和漢書目録掛長に配置換
 (本館) 閲覧課書庫掛長 相 馬 正 基
 (本館) 閲覧課相互利用掛長に配置換
 (本館) 閲覧課相互利用掛長 米 沢 彰
 (本館) 整理課受入掛長に配置換
 理学部図書掛長 田 代 寛
 (本館) 総務課企画渉外掛長に配置換
 工学部図書掛長 遠 藤 哲 朗
 (本館) 整理課洋書目録掛長に配置換
 (本館) 総務課会計掛
 経理主任 白 鳥 司 郎
 (本館) 総務課会計掛長に昇任

(本館) 整理課和漢書目録掛
 文部事務官 石 田 義 光
 (本館) 閲覧課書庫掛長に昇任
 経済学部会計掛主任 菊 地 勝
 (本館) 総務課会計掛経理主任に配置換
 工学部応用物理学科事務主任 川 村 隆 男
 (本館) 閲覧課閲覧掛に配置換
 (本館) 閲覧課閲覧掛
 文部事務官 米 倉 進
 (本館) 閲覧課書庫掛に配置換
 庶務部広報調査課広報調査掛
 文部事務官 目 黒 祥 子
 (医分) 総務掛に配置換
 (本館) 閲覧課書庫掛
 事務補佐員 佐 藤 和 子
 (本館) 総務課企画渉外掛に配置換
 阿 食 秀 昭
 (本館) 文部事務官 閲覧課閲覧掛に採用
 早 坂 六 穂
 (本館) 事務補佐員 整理課洋書目録掛に採用
 川 島 秀 一
 渡 辺 春 美
 (本館) 事務補佐員 整理課和漢書目録掛に採用
 川 村 明
 (本館) 事務補佐員 閲覧課閲覧掛に採用
 菊 池 裕 子
 (医分) 事務補佐員 整理掛に採用

編 集 後 記

この一年を振り返ってみるとまさに光陰矢の如しという感を深くします。まず「木這子」という表題ですが、これは館内から募集して集まった十数点のうちから大友掛長のが決ったものです。変らぬ東北の象徴である「木這子」ですが、この持味を失わないようにデザインして表題欄にのせるのに苦労しました。幸い、当図書館には美学出身の高木さんというこの方面では抜き出た才能の方がおり、この方の快諾のおかげで表紙のような立派なデザインができました。

はたしていつまで原稿が続くかと思われたこの館報、予定した原稿が集らず、四苦八苦したこともありましたが、今どうにか五号目を迎えることができ、また図書館学研究報告と共にISSNに登録されるまでにいたりしました。館内の皆さんどうぞ原稿をどしどしお出し下さい。但しメ切り日は厳守して下さい。いろいろ御指導、御鞭撻をいただきました皆様に感謝すると同時に、この木這子がますます発展し私達の心のつながりとなりますよう祈りながらペンをおきます。

東北大学附属図書館報「木這子」 第2巻 第1号(通巻5号) 昭和52年4月30日発行

編集委員長 松井好次 編集委員 竹原悦郎、田代 寛、沼田恵美、菅野博之、細谷伸枝

発行人 長尾公司 発行所 東北大学附属図書館 仙台市川内 電話 代表 22-1800 (5158)